

Ⅱ、PMD患者にふさわしい車椅子の開発’

国立療養所西多賀病院

宍戸勝枝 鈴木伸一

五十嵐俊光

我々は昨年に引き続き、PMD患者に最も適した車椅子を見出す目的で、調節式車椅子を使用し、その操作の分析をおこなってきた。尚、前回の報告において、ステージ6、及びステージ9についてのある程度の結果を得ているので、今回はステージ7、及び8について検討した事を報告する。

〔研究対象〕

入院中のPMD患者の中からステージ7、5名、ステージ8、5名を選び対象とした。

〔研究方法〕

今回の研究では、20、22、24時の主輪及び5、6、7時のキャスターを使用し主輪軸受け9段階における、1回走行距離及び10m走行時間を測定記録し検討した。尚、調節式車椅子の調節方法の詳細については、前回と同様なので省略する。

結果1. 1回走行距離について

各ステージを通じて最も良好な測定値を示した主輪22吋、キャスター6吋を用いた主軸位置の変化による1回走行距離を、ステージ別に見た場合、ステージ7では、前回の報告とはほぼ同様の結果を得た。つまり主軸上段、中段、下段ともに前方位軸が最も長く、後方位軸が最も短い。又距離の平均においては上段が最も長く、以下中段、下段の順となっている。次にステージ8について見ると、主軸上段の中間位軸と、中段の前方位軸が最も長く、ステージ7同様全ての段の後方位軸が最も短くなっている。各段の距離の平均では僅かの差ではあるが、上段が最も良く、以下下段、中段の順となっている。

結果2. 10m走行時間について

それぞれの10m走行時間の平均をステージ別に見ると、先ず主軸上段でステージ7では、22吋及び軸移動の前方位軸が最も早い結果を表している。次にステージ8について見ると、ステージ7と同様、22吋及び軸移動の前方位軸の成績が良かった。次に主軸中段を同様に見ると、ステージ7では、やはり22吋、及び前方位軸が最も良い結果を示している。

又、ステージ8では24吋が、そして軸移動ではやはり前方位軸が良かった。又、主軸下段においても、ステージ7では22吋、ステージ8では24吋が最も早く、軸移動でも全体的に前方位軸が良い成績を得ている。

結果3. 坐高と主輪の関係について

対象者全体を通じ、坐高が75cm以上の者は24吋、74cm以下の者は22吋を使用した時が最も良い成績をおさめている事がわかった。

結果Ⅳ キンスター変換について

5吋と6吋では特に変化が見られなかったが、7吋では対象者全員が早い結果を得た。

〔ま と め〕

我々がこれまで検討を重ねてきたPMD患者の手動式車椅子について総括してみると、①、ステージ6以下の比較的軽症例においては、従来用いられているスタンダードタイプの車椅子で特に問題はない。②、ステージ9では、手動式車椅子は障害の程度が重度である為、不適當である。③、ステージ7及び8については、今回の研究結果より、(イ)、主輪は殆んどの方に22吋が適當と思われるが、前述の坐高についても考慮する必要があると思われる。(ロ)、主輪軸の位置については、先ず、坐板から主軸中心までの高さがステージ7では13cm～15cm、ステージ8では15cmであり、又、前後方向位軸では両ステージとも、坐板最後部より7cm前方の位置にあるのが適當と思われる。尚、キンスターについては、7吋が最も速い成績を示しているが、足台や主輪との間隔等、処方時に種々の問題があると思われる。

12、車椅子の選び方

国立療養所再春荘

境 勇 祐 上 野 和 敏
植 川 和 利 岡 元 宏
小清水 忠 夫

障害児の状態を把握し訓練を実施する時、必ず評価が必要である。歩行能力を失ったPMD患者の移動能力を代替する最も有効な手段は車椅子であり、患者の要求を少しでも多くみたす車椅子を製作することが我々の責任でもある。我々は処方ミスを未然に防ぐため計測用車椅子を製作し利用している。

これは座の幅、長さ、角度、高さ、背もたれの高さや角度、フットレストの角度等が調節可能であり、対象患者を実際に乗車させて実践的にチェックすることができ、また臨床面でも大いに役立っている。その後、2例について製作したので紹介する。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

我々は昨年に引き続き、PMD 患者に最も適した車椅子を見出す目的で、調節式車椅子を使用し、その操作の分析をおこなってきた。尚、前回の報告において、ステージ 6、及びステージ 9 についてのある程度の結果を得ているので、今回はステージ 7、及び 8 について検討した事を報告する。